

令和 5 年 3 月 23 日
福 祉 保 健 局

「園芸植物等の栽培に関する実態調査及び食中毒に関する意識調査」について

園芸植物等による食中毒の予防に関して、今後の普及啓発の参考とするため、過去10年間に本人又は同居家族が自宅や家庭菜園等で植物を育てて食べた経験のある20歳以上の都民1,000人を対象に、インターネットを用いて、自宅や家庭菜園等における植物の栽培に関する実態と、食中毒に関する意識を調査しました。

このたび、結果をとりまとめましたのでお知らせします。

<調査結果概要>

◆食用の植物を植えたはずなので確認しないで食べるという人が約 3 割

食用かどうか判断に自信がない場合の対応方法は、「食用の植物を植えたはずなので、確認しないで食べる」が 27.1%、「食用の植物かどうか、アプリやインターネットで確認して食べる」が 23.0%、「食用の植物かどうか、図鑑等（電子版を含む。）で確認して食べる」が 18.5%であった。一方、「食べない」も 17.0%あった。

◆植物によっては死亡や重い症状になる場合があるということを知っていた人は約 5 割

植物による食中毒の知識については、「植物によっては、死亡や重い症状になる場合がある」を知っていたのは 49.7%、「植物によっては、嘔吐などの症状がでる場合がある」を知っていたのは 45.4%であった。

◆「ニラとスイセンの誤認」の認知度は約8割、その他は認知度が4割以下

また、有毒植物による食中毒の知識を持つ人のなかで最も認知度が高かった植物は、「スイセン（ニラと誤認）」で、83.0%であった。一方、「チョウセンアサガオ（ゴボウ、オクラ、ゴマと誤認）」は 38.3%、それ以外の植物はさらに低い認知度であった。

参考:報告書本文は、東京都食品安全情報サイト「食品衛生の窓」からダウンロードできます。
URL <https://www.fukushihoken.metro.tokyo.lg.jp/shokuhin/hyouka/houkoku/index.html>

問合せ先
東京都健康安全研究センター 企画調整部
健康危機管理情報課 食品医薬品情報担当

都民のみなさまへ

有毒植物による食中毒は、春に多く発生します。
食用と判断できない植物は食べないでください。

有毒植物や見分け方については、ぜひ次のサイトをご覧ください。



- ◆東京都の食品安全情報サイト「食品衛生の窓」「間違えやすい有毒植物」
<https://www.fukushihoken.metro.tokyo.lg.jp/shokuhin/dokusou/index.html>

- ◆東京都の食品安全情報サイト「食品衛生の窓」
「食中毒予防ポスター・リーフレット等」
<https://www.fukushihoken.metro.tokyo.lg.jp/shokuhin/pamphlet2/pamphlet.html>



- ◆東京動画
<https://tokyodouga.jp/>
「有毒植物」で検索



スイセン、バイケイソウ、イヌサフラン、チョウセンアサガオ、トリカブトなどの見分け方を、東京都薬用植物園の主任研究員が分かりやすく解説している動画です。アーカイブ配信期間は、令和6年3月31日までです。

家庭園芸、ちょっとした注意で楽しく安全に
觀賞用植物などを誤って食べたことによる食中毒が多発しています！
スイセン類
有毒部位：植物全体
中毒症状：食後30分以内で、吐き気、おう吐、
瀉瀉など
何と間違えやすい？
●葉をニラと誤って食べてしまう例が多発
しています。
見分けのポイント
「におい」
ニラの葉には特有の
臭いがあり、スイセ
ンの葉には臭いがあ
りません。
●球根（鱗茎）もノビルやタマネギと
間違えやすいので注意してください。
食べられません！
植えるときの注意点
●食べる目的で植える場合は、食用の植物が確
認してから植えましょう。
●食用植物と觀賞用植物は並べて
植えず、明確に区別して、
植えましょう。
●種が混んで来たたり、昨年以前に植えたものが再
び生えてくることもあるので、よくこぼれ種を植え
たか、必ずネットフレートでつづきましょう。
●何か植えたら家庭にも植えましょう。
●種物の種類がわからな
い、何かなだかな？と
思ったら、食べずに、
都立薬用植物園に相談
しましょう。
植えたもの食べるときの注意
●食べるとき、人に
おげるときの注意
●食用として植えた覚え
のない植物は食べな
い人にあげない。
市民農園や庭などに生えた植物を食べて、体調が悪くなったら
すぐに医師の診察を受けましょう！
原因と思われる植物が残っている場合は、医師の指示に従って適切な処置をとりましょう。
東京都福祉保健局

東京都福祉保健局
これ食べられる？
有毒植物の見分け方講座 ～スイセン類～
・食中毒事件数No.1
・葉を食用のニラと誤って食べてしまう
見分けがつかますか？

東京動画の例

リーフレット

「家庭園芸、ちょっとした注意で楽しく安全に」

園芸植物等の栽培に関する実態調査及び食中毒に関する意識調査（概要）

1 調査目的等

（1）目的

園芸植物等の誤食による食中毒予防等についての的確な情報発信を行っていくため、自宅や家庭菜園等における植物の栽培に関する実態と、食中毒に関する意識を把握する。

（2）調査対象者

過去10年間に本人又は同居家族が自宅や家庭菜園等で植物を育てて食べた経験のある20歳以上の都民

（3）調査方法

調査会社によるインターネットアンケート

（4）調査期間

令和5年1月10日（火曜日）から令和5年1月13日（金曜日）まで

（5）回答者属性の設定

「20代」「30代」「40代」「50代」「60代以上」の各年代の男女それぞれ100人ずつ、計500人ずつ設定し、合計1,000人とした。

2 調査結果概要

（1）回答率

回答者全数の回答が得られた（有効回答率100.0%）

（2）食用の植物の栽培及び喫食の実態

ア 植物を育てた人（複数回答）

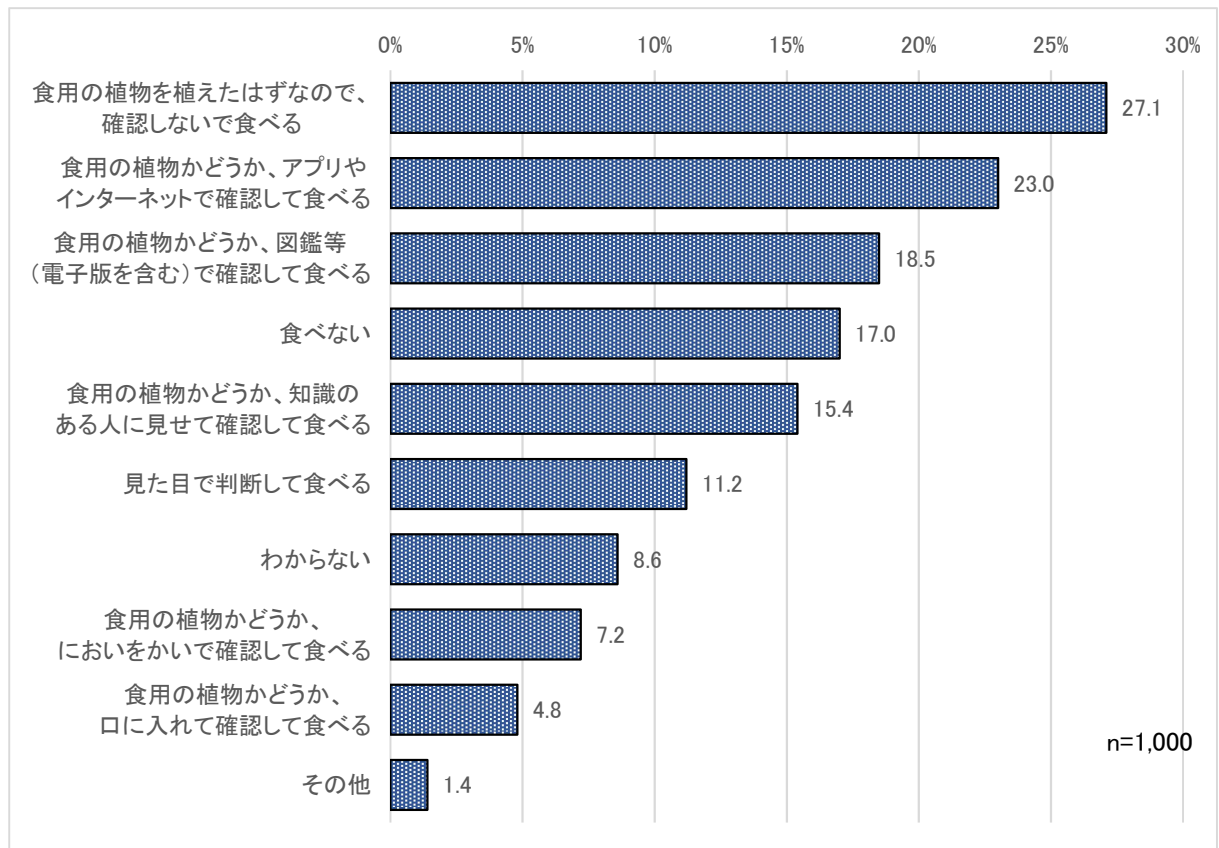
自宅や家庭菜園等で植物を育てている（育てた）のは、「自分」が64.9%、「同居家族」が54.0%であった。

イ 植物の栽培歴

植物の栽培歴については、「10年以上」が33.4%、「4～9年」が29.1%、「3年以下」が37.5%であった。

ウ 確認方法（複数回答）

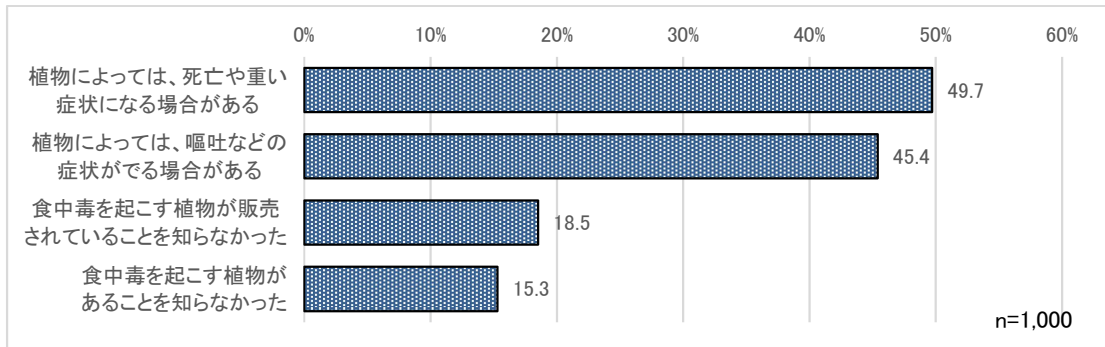
食用かどうか判断に自信がない場合の対応については、「食用の植物を植えたはずなので、確認しないで食べる」が27.1%、「食用の植物かどうか、アプリやインターネットで確認して食べる」が23.0%、「食用の植物かどうか、図鑑等（電子版を含む。）で確認して食べる」が18.5%であった。一方、「食べない」も17.0%あった。



(3) 園芸植物等に関連する食中毒の知識

ア 食中毒の知識（複数回答）

植物による食中毒の知識については、「植物によっては、死亡や重い症状になる場合がある」が49.7%、「植物によっては、嘔吐などの症状がでる場合がある」が45.4%であった。一方、「食中毒を起こす植物が販売されていることを知らなかった」は18.5%、「食中毒を起こす植物があることを知らなかった」は15.3%であった。



イ 知っている園芸用の有毒植物（複数回答）

有毒植物による食中毒の知識を持つ人に、食中毒を起こす植物について知っている植物を聞いたところ、「スイセン（ニラと誤認）」が83.0%であった。一方、「チョウセンアサガオ（ゴボウ、オクラ、ゴマと誤認）」は38.3%であるほか、それ以外の植物は、さらに認知度が低かった。

